

POLICY BRIEF

子どもたちにも成果をもたらす G20 とするために

2012 年 G20 サミット ワールド・ビジョン政策提言書

- 「栄養を重視した」農業や、栄養不良の子ども数を減少させるために行われている各国の取り組みに対する支援を強化し、栄養と食料安全保障の成果を向上してください。
- G20 と後発開発途上国との協議プロセスを年に一度設けることにより、今後の G20 の計画に後発開発途上国の視点を取り入れてください。
- 持続的な開発に向けた取り組みにおいて、更に子どもに焦点を当ててください。

G20 は、主要な経済・金融問題について世界各国の協調的な行動を促す強力なメカニズムです。今日まで、G20 は変動する食料価格の改善、農業生産の増加、食料安全保障の向上など、様々な取り組みを行ってきました。しかし、世界的な栄養危機に対する取り組みには、問題の規模と深刻さに見合う緊急性と焦点が欠けています。栄養不足により、毎年 250 万人以上の子どもたちが死亡する根本的な原因となっており¹、世界中で 1 億 7 千万人以上の子どもたちの成長と可能性を妨げているのです²。

世界的経済の安定に対する G20 の懸念は評価に値しますが、子どもの栄養改善の成果にも同様に注目すべきです。子どもの生存と生涯にわたる健全な発達の可能性を高める上で、望ましい栄養状態の確保は、子どもの人生において第一に取り組むことのできる最善の方策です。その効果は、子どもだけでなく、家族やコミュニティ、さらには国レベルにまで及びます。女性が妊娠してから子どもの 2 歳の誕生日までの 1,000 日間において適切な栄養を摂ることは、健康的な脳の発達や身体的成長を促すだけでなく、出産中および出産後の命

に関わる脅威や死に至る可能性がある幼少期の病気を免れる能力、あるいは病気と闘う能力を高めます。乳幼児の発育不良を減少させる栄養改善への投資は、非常に重要であり、開発途上国の経済成長を約 2% から 3% 高めると言われています³。

これまで G20 諸国の農相は、栄養不良の子ども数を減少させる上で、農業および食料安全保障の政策やプログラムが果たし得る役割に対し、理解を示してきました。しかし、総合的かつ持続的な取り組みには至っていません。

世界で最も影響力のある経済のリーダーたちは、栄養不良に対する潮流を変えるために、この問題に継続して注目し、行動を起こす政治的・道徳的責任を引き受けるべきです。2012 年、G20 のリーダーたちは、ブラジルで開催される国連持続可能な開発会議（リオ+20）などを通し、何百万人も子どもたちが人生のスタートを最善な形で切ることができるよう投資し、自分たちの役割を果たすという意図を世界各国に示すべきです。



ワールド・ビジョンは、以下の政策を G20 に提言します。

1. 以下の取り組みを通じて、栄養と食料安全保障を向上させてください。

- 農業に関する政策やプログラム、開発援助が、栄養を重視し、子どもの栄養改善を測定可能な主要目標として定めた各国主導の戦略を保障する。
- 「栄養への取り組み拡充 (Scaling Up Nutrition)」枠組⁴ を承認し、栄養不良を減少させるための各国の拡大した取り組みを支援する。
- 小規模農民、特に女性の農民に対し、より協調的な支援を強化する。

今日、農業や食料安全保障、社会福祉、教育など、子どもたちの栄養向上に貢献する可能性を持つ分野において、協調的な資源の動員は達成されていません。中には、栄養の向上にまったく貢献していないケースも見受けられます。農業やその他食料安全保障に関する取り組みが栄養安全保障の向上に寄与するためには、特に子どもたちの栄養改善に関する成果を、農業政策、プログラムの明確な目標として定めるべきです。またパフォーマンスの評価に、栄養に関する成果を含めるべきです。

2011 年に発表された「食料価格の変動および農業に関する行動計画」において、G20 の農相は「栄養のある食料へのアクセスを確保するために世界中で、農業生産の質と多様性を改善し、栄養を重視した農業政策にも特別な注意が払われるべき」⁵と呼びかけました。しかしながら、この取り組みが、さらなる行動が求められる分野として 2011 年のドービル・サミットの成果文書で強調されることはありませんでした。今こそ G20 は、加盟各国の農相に対し、栄養を重視した農業政策を策定し、深刻な栄養不良を抱える国々における同様の政策の策定、実施を支援するよう、呼びかけるべきです。そのためのメカニズムに「栄養への取り組み拡充 (Scaling Up Nutrition: SUN)」があります。G20 諸国の多くが、既に SUN 枠組と近年形成された SUN リーダーズ・グループ (インドネシア、米国、EU を含む G20 加盟国 5 カ国の閣僚代表者が参加) を承認しています。

2. 以下を通じて、持続可能な開発に向けた取り組みにおいて、子どもへの焦点をさらに強化してください。

- 農業やエネルギー、気候、環境など、セクターや省庁を横断し、その効果を測る主要な指標とした、子どもの保健と栄養に関する成果を定める。
- 母親と子どもの保健向上のため既存の国際的な目標の達成を目指す取り組みの継続した拡充する。

子どもの健康状態は、持続的な開発を測る最善の指標の一つです。ある研究では「子どもの生存率が 5%高まると、続く 10 年間で毎年 1%ずつ経済成長が上昇する」ことが明らかとなっています⁶。その一方で、毎年 5 歳未満の子どもたちの 700 万人以上が予防可能な病気により命を落としており、その 3 分の 1 は G20 の国々で発生しています。⁷

G20 には、2015 年の期限までにミレニアム開発目標を達成するため、命を落とす子どもの数をさらに減少させる上で、リーダーシップを発揮するチャンスが与えられています。開発計画やプログラムに主要な指標を含むことにより、持続可能な開発に対するアプローチにおいて、子どもの保健と栄養に関する成果を優先すべきです。

3. G20 と後発開発途上国との協議プロセスを年に一度設けることにより、今後の G20 の計画に後発開発途上国の視点を取り入れてください。

G20 は、毎年数カ国の非加盟国をサミットに招待しています。この取り組みは継続されるべきですが、さらに計画の初期に後発開発途上国との具体的な協議プロセスを設けるべきです。現在、G20 加盟国は他の課題を優先する傾向にあり、後発開発途上国の特別なニーズや視点を検討することはほとんどありません。このような協議プロセスを設け、さらに G20 による行動の結果の綿密な報告を実施することにより、G20 の視野を広げ、その正当性を高めることができるのです。

引用文献

- ¹ ユニセフ. 2011. 『子どもの死亡率の推移 2011 (Levels and trends in child mortality 2011)』
<http://www.childinfo.org/files/Child_Mortality_Report_2011.pdf>
- ² WHO, 2012, <http://www.who.int/pmnch/media/news/2012/20120215_ste_pr_children_malnutrition/en/index.html>, accessed 18 April 2012.
- ³ Hoddinott, J., et al., 2008. 「グアテマラの成人の経済的生産性に対する幼児期における栄養介入の効果 (Effect of a nutritional intervention during early childhood on economic productivity in Guatemalan adults)」 *The Lancet* 371 no. 9610 (2008 年 2 月 2 日) 411-16.
- ⁴ 「栄養への取組み拡充 (Scaling Up Nutrition: SUN)」は飢餓および栄養不良との戦いにも取り組むことを誓った 100 以上の団体やグループによるもので、妊娠から 2 歳の誕生日までの 1,000 日間における栄養を向上させるという枠組みです。その効果が証明されている解決策の拡充に焦点を当てています。詳しくは www.scalingupnutrition.org。
- ⁵ http://agriculture.gouv.fr/IMG/pdf/2011-06-23_-_Action_Plan_-_VFinale.pdf.
- ⁶ Anderson, E. & Hague, S. 2007. 「子供たちへの投資のインパクト: 複数国における計量経済学的証拠の評価 (The impact of investing in children: Assessing the cross-country econometric evidence)」 Overseas Development Institute and Save the Children ワーキングペーパー-280. London.
- ⁷ ユニセフ. 2011. 『世界子供白書 2012 (State of the World's Children 2012)』 <http://www.unicef.org/publications/files/SOWC_2012-Main_Report_EN_13Mar2012.pdf>.

